

## コンクリ2団体が消火活動

県などの総合防災訓練に参加



ポンプ車からの放水

送協会ではその水をアーム長36メートルのコンクリートポンプ車を使って放水するといふもの。大規模災害時に消防車が不足した場合、直接消火活動に当たることが可能となる。また、コンクリートポンプ車のブーム先端から消防用ノズルを使って行う放水訓練は、全国で初めての試みとなった。

渡邊理事長は「今回の訓練で、われわれの連携作業が災害発生時にはとても有効だということが立証できた。災害は起きないことが一番だが、万が一のときには少しでも多くの県民の命を守る体制が整った」と述べた。また、佐藤会長は「有事の際にはコンクリ2団体が一丸となって応援に駆け付け、消火活動に尽力していく所存だ」と力強く語った。

山形中央生コンクリート協同組合（渡邊英一理事長）と山形県コンクリート圧送協会（佐藤隆彦会長）は8月31日、山形市の霞城公園内で開かれた「山形県・山形市総合防災訓練」に合同で参加した。

両団体は2017年に山形市と、18年には天童市と「災害時における消防活動応援に関する協定」を締結

し、昨年度は初の試みとして山形市が主催した防災訓練にも参加した経緯がある。

今回の訓練には両団体から約10人が参加し、プログラムの一環として「大規模火災防ぎよ訓練」を実施した。訓練内容は、山形中央生コンクリート協同組合側が約4000リットルの水をコンクリートミキサー車で運搬し、山形県コンクリート圧